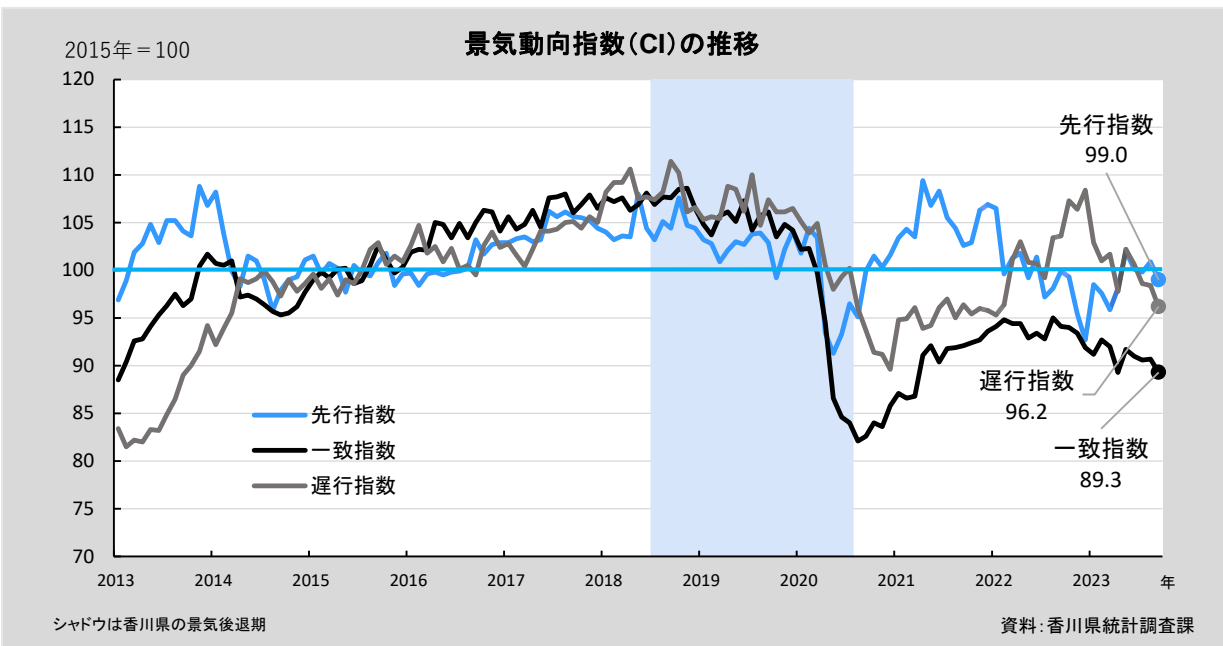


概況	景気は、持ち直している。
個人消費	持ち直しの動きが続いている。
住宅投資	低調に推移している。
公共投資	横ばい圏内の動きとなっている。
生産活動	横ばい圏内の動きとなっている。
雇用情勢	持ち直しの動きに弱さがみられる
貿易	輸出は増加、輸入は減少している。
観光	持ち直しの動きが続いている。

景気動向指数(かがわ CI) 一致指数 2カ月ぶり下降



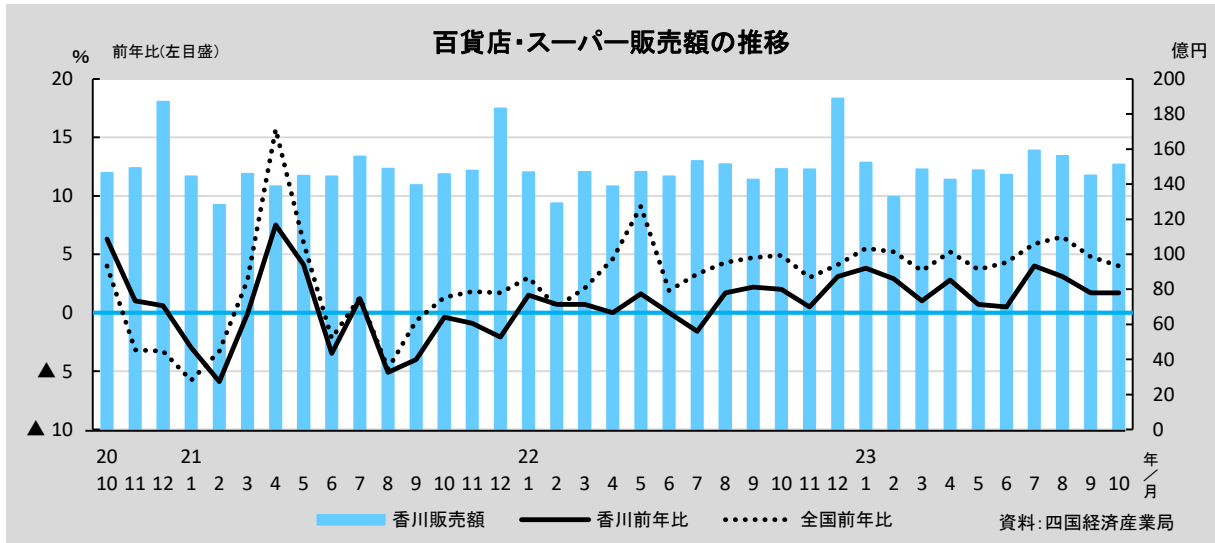
景気の現状をみると、9月のCI一致指数は89.3（前月比▲1.4ポイント）と2カ月ぶりに下降。CI先行指数は99.0（同▲1.9ポイント）と2カ月ぶりに下降。CI遅行指数は96.2（同▲2.2ポイント）と4カ月連続で下降。

景気の現状を示す一致系列の個別指標では、鉱工業出荷指数、鉱工業生産指数等が下降に寄与したことにより、前月から1.4ポイントの下降となった。

	先行系列	寄与度	一致系列	寄与度	遅行系列	寄与度
採用景気指標	1 新規求人数	▲ 0.63	1 雇用保険受給者実人員	0.08	1 常用雇用指数	▲ 0.23
	2 乗用車新車登録台数	▲ 0.94	2 有効求人倍率	▲ 0.32	2 有効求職者数	▲ 0.66
	3 鉱工業在庫率指数	▲ 0.03	3 所定外労働時間指数	0.58	3 消費者物価指数	▲ 0.05
	4 生産財生産指数	0.50	4 鉱工業生産指数	▲ 0.57	4 家計消費支出	▲ 0.49
	5 新設住宅着工戸数	▲ 0.31	5 鉱工業出荷指数	▲ 0.69	5 鉱工業在庫指数	▲ 0.31
	6 金融機関貸出残高	0.18	6 建築着工床面積	▲ 0.31	6 法人事業税調定額	▲ 0.40
	7 消費者態度指数	▲ 0.38	7 百貨店・スーパー既存店販売額	▲ 0.21	7 第3次産業活動指数	0.23

●百貨店・スーパー販売額

15 カ月連続増加 ↑

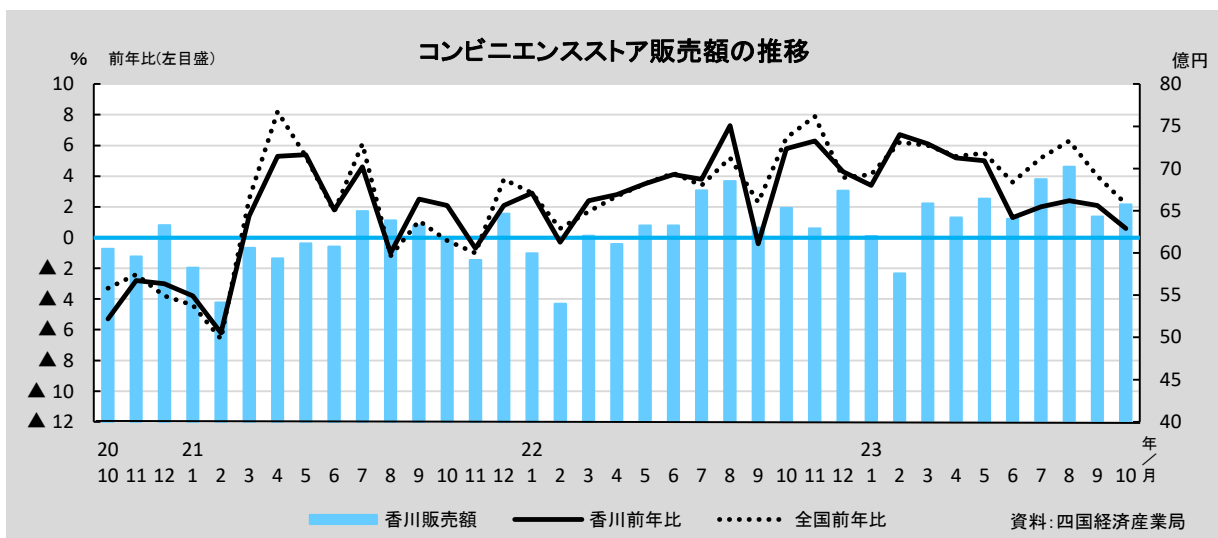


2023/10月	衣料品	身の回り品	飲食料品	家具	家庭用 電気機械器具	家庭用品	その他の商品	食堂・喫茶	合計
販売額(万円)	122,391	62,500	1,099,795	2,773	4,371	67,059	152,347	540	1,511,776
前年同月比(%)	▲ 2.8	0.4	1.1	10.7	▲ 7.0	155.5	▲ 13.9	13.7	1.7

10月の百貨店・スーパー全店(85店)の販売額は151.2億円で、前年同月比+1.7%と15カ月連続で増加した。商品価格の上昇や中食需要の定着等により「飲食料品」は同+1.1%と堅調に推移した。「衣料品」は気温高の影響で秋・冬物衣料の動きが悪く同▲2.8%となった。

●コンビニエンスストア販売額

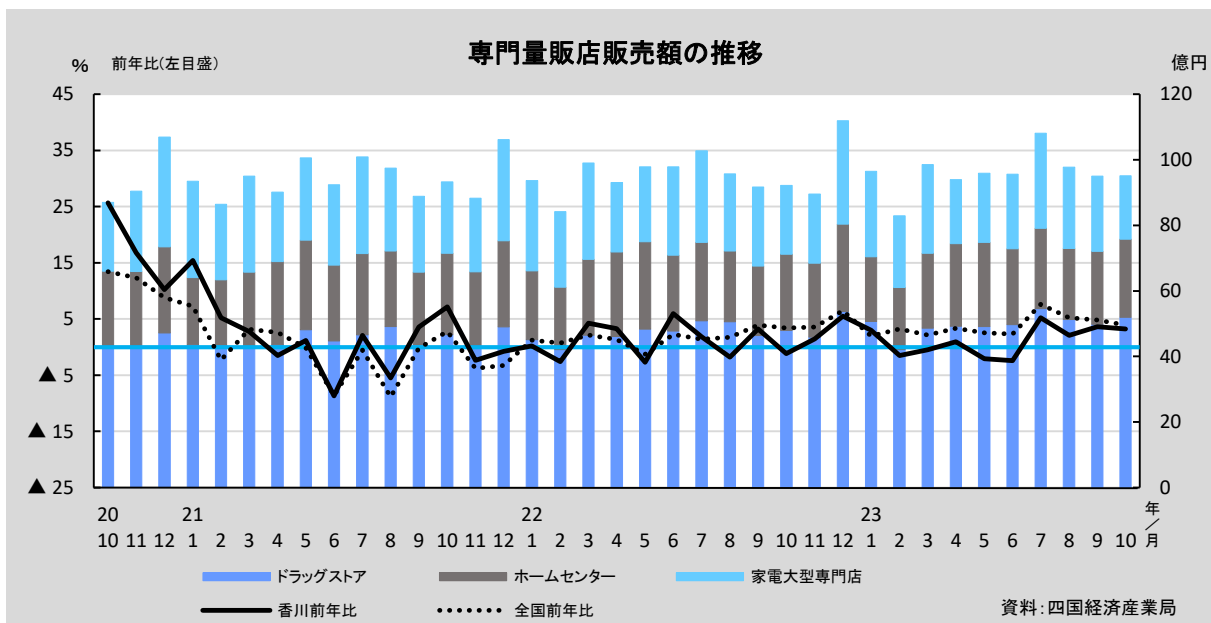
13 カ月連続増加 ↑



10月のコンビニエンスストア全店(401店)の販売額は65.8億円で、前年同月比+0.6%となった。消費者の動向には節約志向がうかがえるものの、商品価格の上昇や販売促進効果等で13カ月連続の増加となった。

●専門量販店販売額

4 カ月連続増加

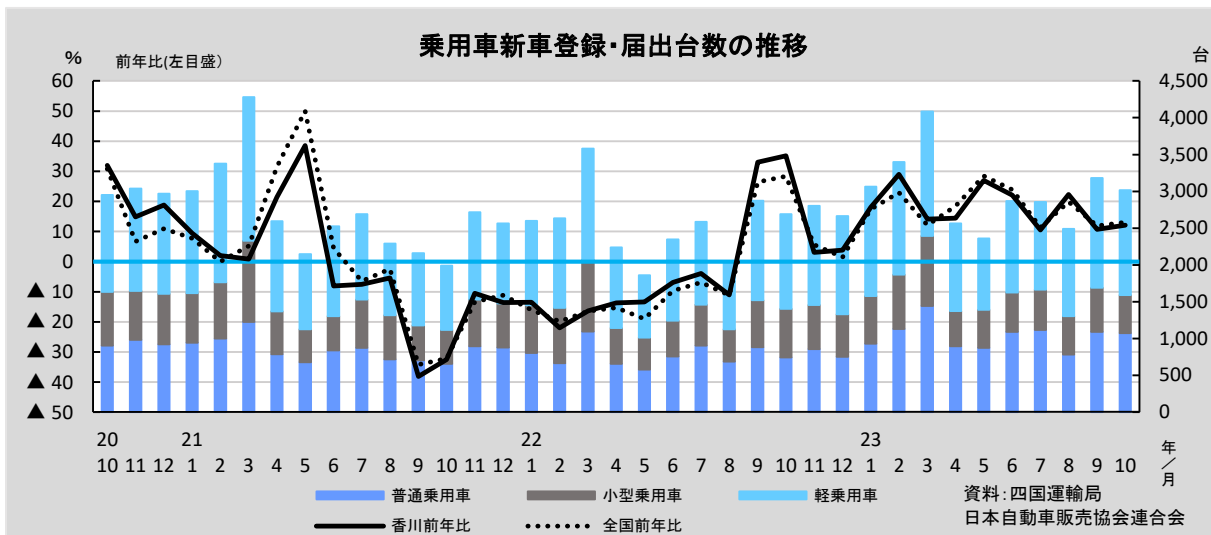


10月の専門量販店全店（215店）の販売額95.1億円で、前年同月比+3.2%と4カ月連続で増加した。

業態別にみると、**家電大型専門店**（28店）の販売額はエアコン等の季節商品やパソコンなどの動きが悪く、19.3億円で前年同月比▲7.7%となった。**ドラッグストア**（141店）の販売額は、商品価格の上昇、堅調な冷凍食品・調剤医薬品のほか、化粧品が好調で、51.9億円で同+8.3%となった。**ホームセンター**（46店）の販売額も引き続き堅調に推移し、23.9億円で同+2.5%となった。

●乗用車新車販売台数

14 カ月連続増加




10月の乗用車（普通・小型・軽）新車販売台数は3,016台で、半導体や部品不足で低迷した前年からの反動増で前年同月比+12.1%と14カ月連続で増加した。

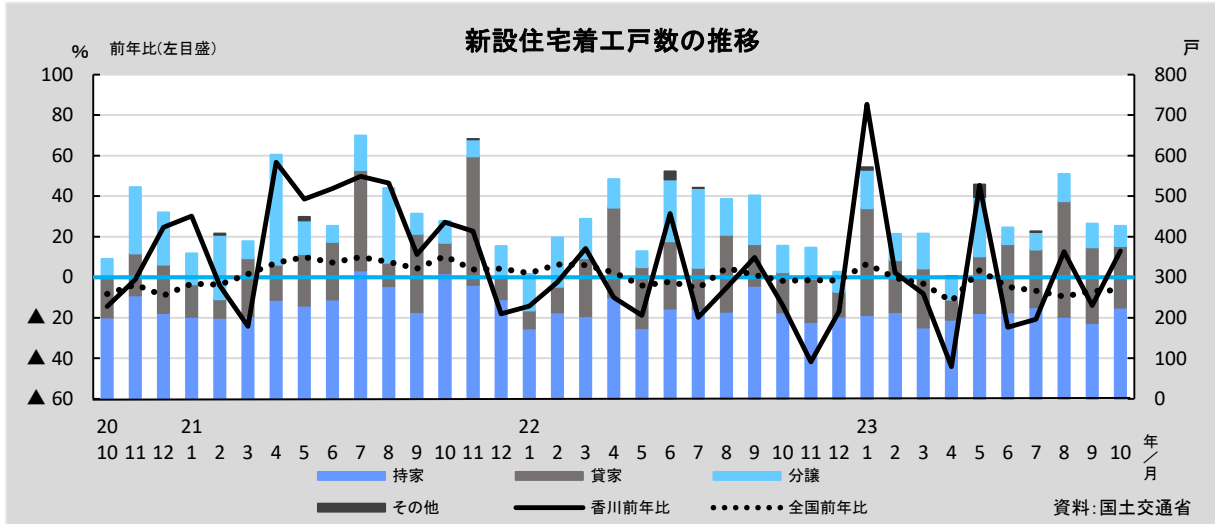
車種別にみると、普通乗用車で前年同月比+44.9%、小型乗用車で同▲21.9%、軽乗用車で同+10.7%となった。

## 住宅投資

低調に推移している

### ●新設住宅着工

2カ月ぶり増加 




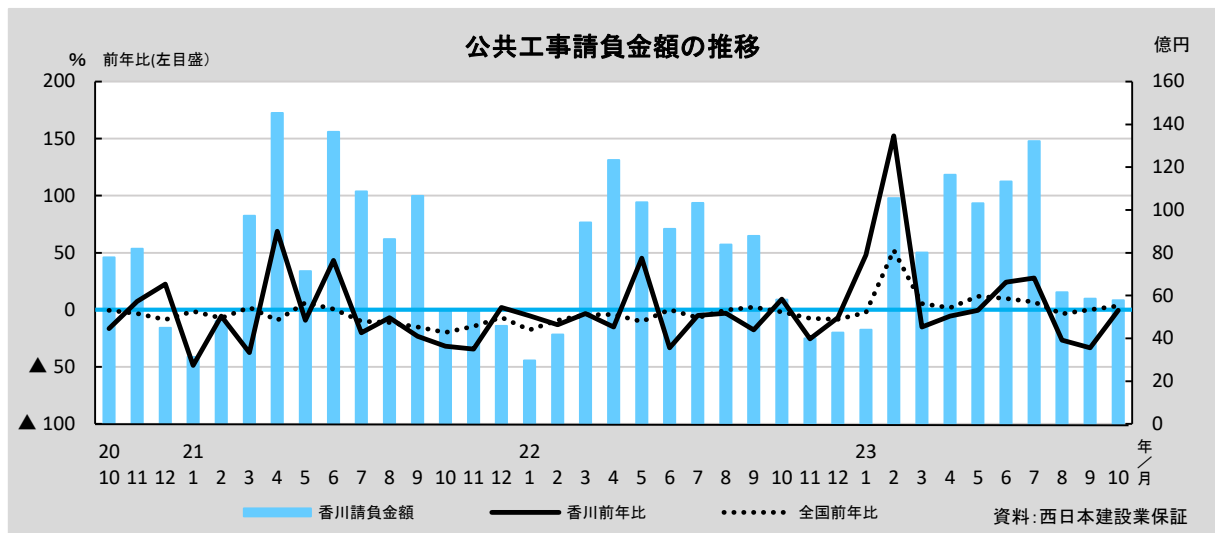
10月の新設住宅着工戸数は427戸で、前年同月比+13.0%と2カ月ぶりに増加しました。利用関係別にみると、**持家**で前年同月比+5.6%、**貸家**で同+53.5%、**分譲住宅**で同▲24.2%となった。

## 公共投資

横ばい圏内の動きとなっている

### ●公共工事請負金額

3カ月連続減少 

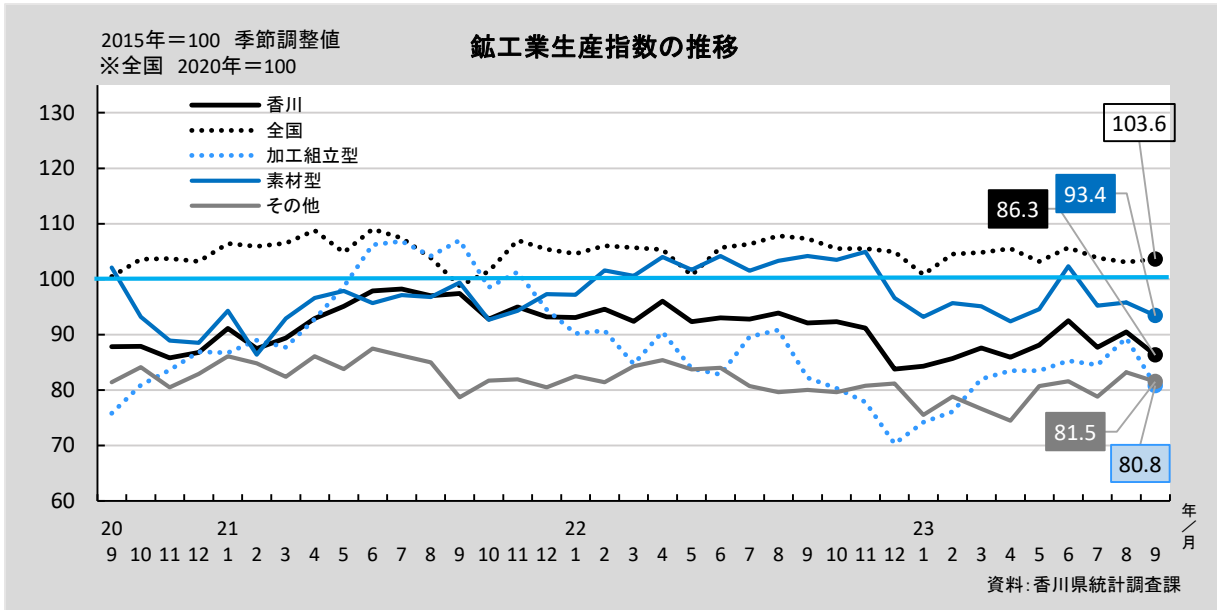


10月の公共工事請負金額は57.8億円で、前年同月比▲0.4%と3カ月連続で減少しました。発注者別にみると、**国・独立行政法人等**で前年同月比▲37.5%、**県**で同+24.6%、**市町**で同▲8.2%となった。

2023.4月～10月の累計では前年同期比1.3%減少している。

## ● 鉱工業生産指数

2カ月ぶり低下

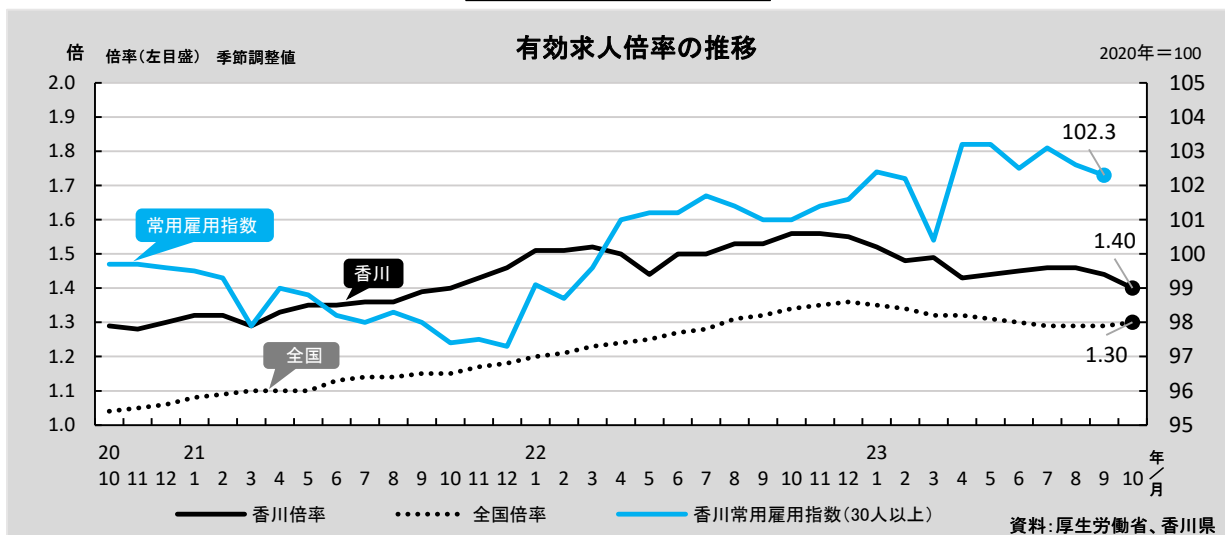


9月の鉱工業生産指数（季節調整済指数）は86.3（前月90.5）となり、2カ月ぶりに低下した。

業種別では加工組立型の輸送機械工業（船用ディーゼル機関・鋼船など）は前月比▲9.9%、電気機械工業（開閉制御装置など）は同▲12.6%と低下した。一方、素材型のパルプ・紙・紙加工品工業（乳幼児用紙おむつなど）は同+2.8%と上昇した。

## ● 有効求人倍率

2カ月連続減少



10月の有効求人倍率（季節調整値）は、1.40倍（全国15位）と前月より0.04ポイント低下した。

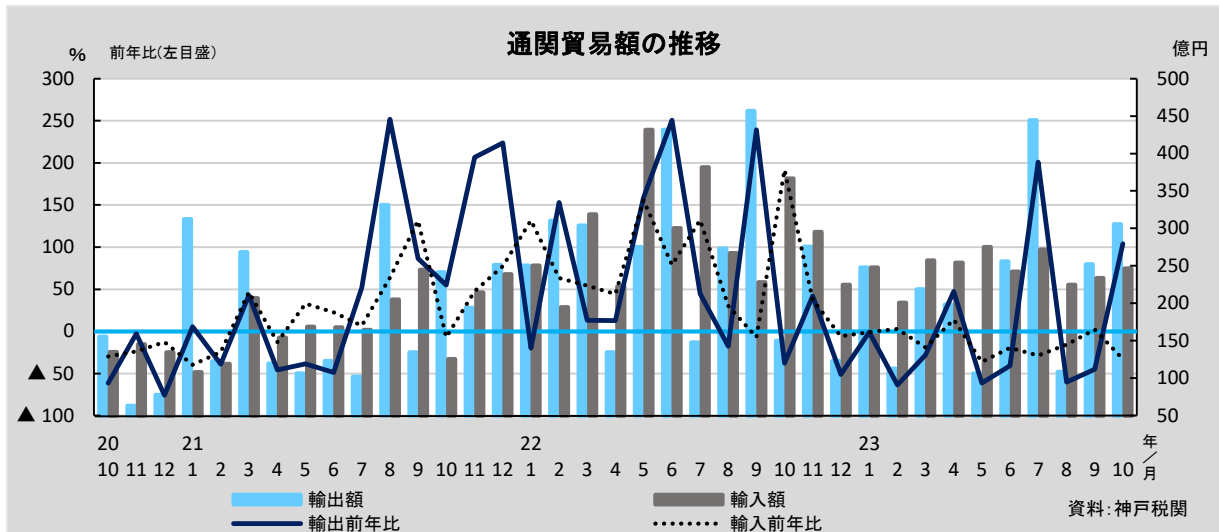
新規求人（原数値：前年同月比）は、宿泊業・飲食サービス業、卸売業・小売業、運輸業・郵便業、製造業等で減少し、全体で▲6.9%と5カ月連続で減少した。

9月の常用雇用指数（事業所規模30人以上）は、102.3となり、前年同月比は19カ月連続で増加した。

職業別常用有効求人倍率	倍
専門・技術的職業従事者	2.05
事務従事者	0.62
販売従事者	2.45
サービス職業従事者	3.44
生産工程従事者	2.23
輸送・機械運転従事者	2.12
建設・採掘従事者	5.19
運搬・清掃・包装等従事者	1.19

## 貿易

輸出は増加、輸入は減少している



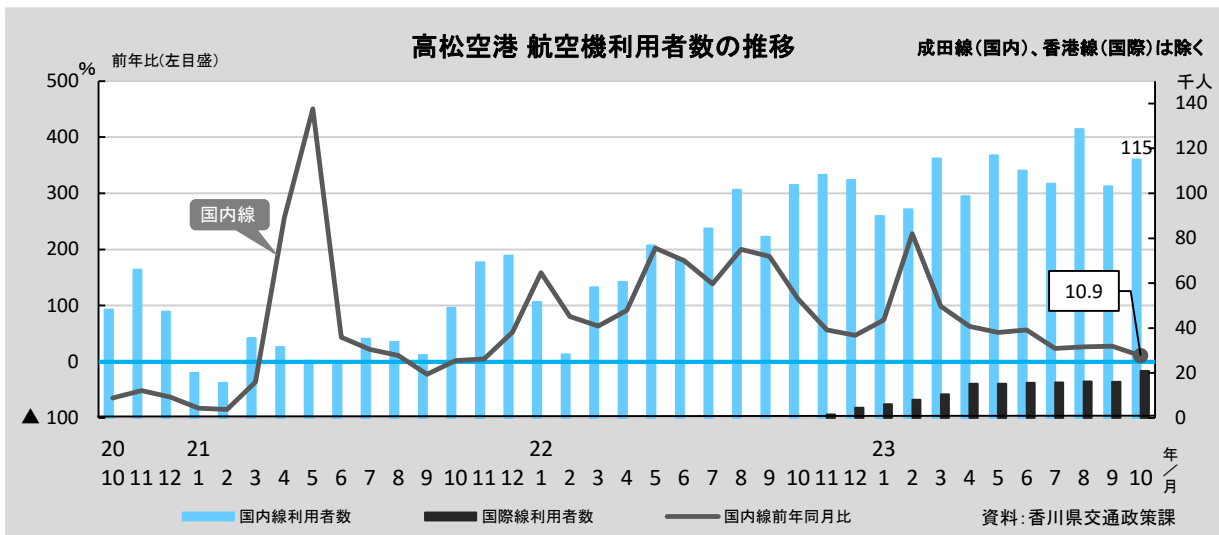
10月の輸出額は前年同月比+104.1%の305.7億円、輸入額は同▲32.8%の246.4億円となり、差し引き59.3億円の出超となっている。

輸出は、前年ゼロだった貨物船輸出額が211億円となった。輸入は、液化天然ガス輸入額が前年の72億円からゼロとなった。

## 交通

国内線は25カ月連続増加、国際線は順調に増加

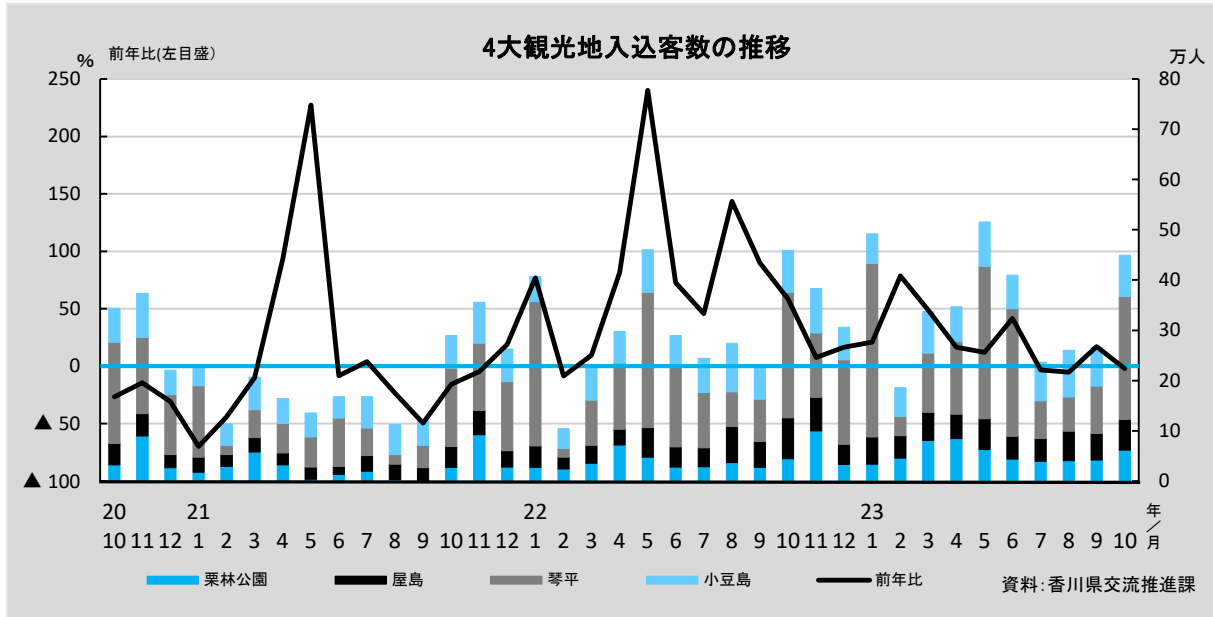
### ●高松空港旅客輸送実績



10月の航空機利用者数は、国内線（羽田・那覇線）が115,003人（前年同月比+10.9%）となり、25カ月連続で増加した。羽田線は106,004人（同+7.6%）、那覇線は8,999人（同+72.9%）となった。

国際線は、ソウル線が15,020人、台北線が5,255人と堅調に推移し、9月下旬から一時運航再開した上海線の609人と合わせて20,884人となった。

●主要観光地入込客数

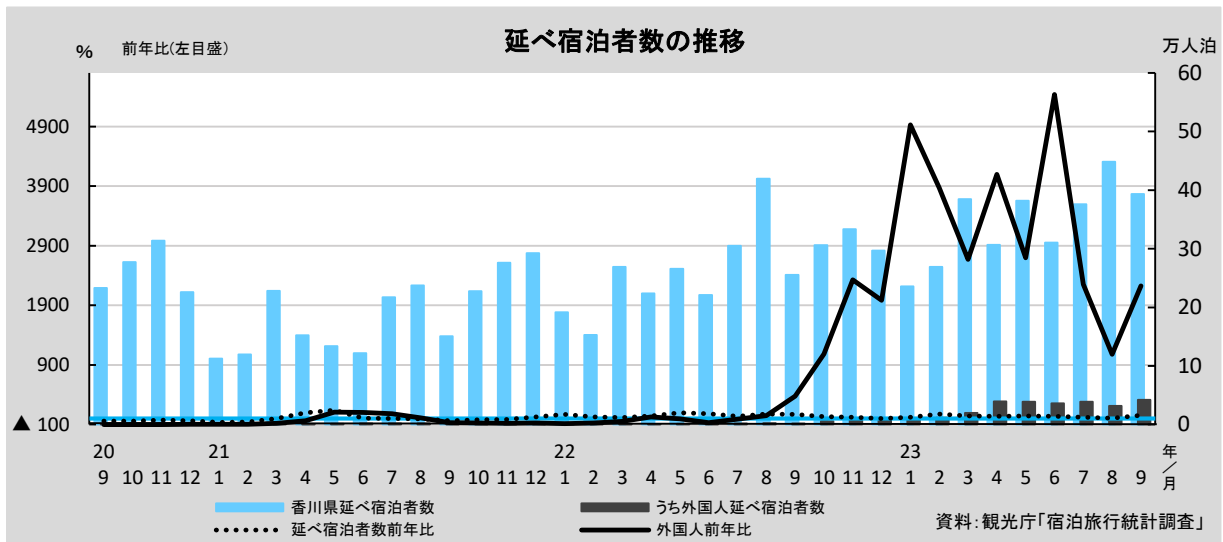


観光地入込客数		栗林公園		屋島		琴平		小豆島		合計	
10月(人)	前年同月比	61,455	37.6%	61,458	▲24.7%	244,000	▲2.0%	82,377	▲1.2%	449,290	▲2.0%
1~10月累計(人)		534,758	43.9%	527,112	11.2%	1,683,000	14.6%	754,270	11.8%	3,499,140	17.1%

10月の主要観光地の入込客数は、前年同月比▲2.0%と2カ月ぶりに減少した。栗林公園は前年同月比+37.6%と増加したが、屋島は同▲24.7%、琴平は同▲2.0%、小豆島は同▲1.2%と減少した。

1~10月の累計では前年比+17.1%となった。

●延べ宿泊者数



9月の延べ宿泊者数は393,370人で、前年同月比+54.0%と22カ月連続で増加した。コロナ禍前の2019年同月比では▲3.0%となった。

うち、外国人延べ宿泊者数42,340人となり、前年同月比+2,226.4%と14カ月連続で増加した。2019年同月比では▲31.9%となった。